

倫理委員会議事録

1. 日時 平成26年10月1日(水) 9:30~9:50
2. 場所 応接室
3. 出席者 副院長、統括診療部長、事務部長、看護部長、薬剤科長、管理課長
4. 申請者 布原史翔理学療法士
5. 議題 神経筋疾患患者における吸気方法の違いによる吸気量の比較
6. 記録者 管理課長

議事要旨

<副院長>

議題について申請理由を説明されたい。

<布原史翔理学療法士>・・・申請6について配布資料により説明

目的

神経筋疾患患者において、救急蘇生バックをしようしてどの吸気介助方法がより有効であるかを横断研究にて比較検討することを目的とする。

審査請求理由

本研究は、学会へ発表する予定であり使用データの倫理的配慮とその適正について審査を希望する。

(事務部長)

当初は徒手的に息溜めしながらLIC(一方弁による最大強制吸気量)を測定するが、今後、LICの測定装置が使用可能となった場合は・・・とあるが、予定はあるのか。

(布原史翔理学療法士)

国立精神・神経センターにおいて、一方弁の貸出を行っており、やり取りをしているところであるが、契約手続きを行ったうえで貸出となるため、早くても年末近くになると思われる。

(統括診療部長)

マンメーターは、60cmH₂O以上になると自動的に停止するのか。

(布原史翔理学療法士)

自動的に停止しませんので、患者に苦しくないか確認をしながら行うこととなります。

(事務部長)

職員は、測定中、常時患者に付いているということですね。

(布原史翔理学療法士)

その通りです。

(事務部長)

目標症例数は、どの程度を考えていますか。

(布原史翔理学療法士)

外来患者、あゆみ病棟患者を対象として40症例を目標としています。

(副院長)

以上で審議を終了するが、この案件については承認してよろしいか。

《全委員異議なし》

(副院長)

- ・ 承認判定で院長へ答申する。

(様式 2)

倫理委員会審査判定答申書

平成26年10月1日提出

独立行政法人国立病院機構
広島西医療センター病院長 殿

広島西医療センター倫理委員会
委員長 岩崎 洋 一 印

受付番号 6

課題名 神経筋疾患患者における吸気方法の違いによる吸気量の比較

申請者 布原 史翔

上記についての諮問に対し、平成26年10月1日の倫理委員会において審議した結果、下記のとおり答申する。

記

1. 判定

①承認

②条件付承認

③不承認

④非該当

2. 理由

本研究は、文書を用いて説明を行い、同意を得たうえで実施するものであり、患者データについては匿名化して、個人特定ができないように配慮することから倫理上問題はないと判断する。

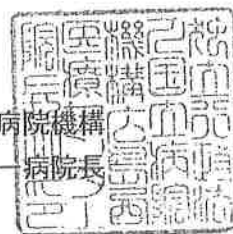
(様式 3)

倫理委員会審査判定通知書

平成26年10月3日

申請者 布原 史翔 殿

独立行政法人国立病院機構
広島西医療センター病院長



受付番号 6

課題名 神経筋疾患患者における吸気方法の違いによる吸気量の比較

代表者名(責任者) 布原 史翔

平成26年9月29日付で審査の申請があった、上記課題について、下記のとおり判定したので通知する。

記

1. 判定

①承認

②条件付承認

③不承認

④非該当

2. 理由

本研究は、文書を用いて説明を行い、同意を得たうえで実施するものであり、患者データについては匿名化して、個人特定ができないように配慮することから倫理上問題はないと判断する。